

緩和ケア病棟

さとわ

No.15

さとわ

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

「終の棲家」としての緩和ケア病棟

施設長 篠川 主



私の家は代々開業医として仕事を続けてきました。数人は入院して治療を行っていたようですが、父の代まで五泉市内には病院がありませんでした。人生の最後を迎える場所は、自宅が当たり前のこととして受け入れられていました。医療保険制度の確立していなかった頃は、貧しい方が今のように診療所を受診することは安易にできず、最後に医師に脈をとってもらえれば幸せだと多くの方がおっしゃっておられました。介護は家族、特に嫁の役目で、私の祖父も祖母も自宅で看取りました。父の兄弟・親族は多く、大勢見舞いや看病で自宅に宿泊するたびに母は接待に追われておりました。一方「介護の仕方が気に入らない」とよく苦言を言われておりました。それに対し父は「手本をみせてくれ」と反論しておりました。田舎ではよくみられた光景だと思います。私は子供ながら自宅での看取りには問題があると感じるようになりました。その後全国に病院が多く設立されましたが、家族構成は核家族化し、自宅と病院の看取りの数が逆転しました。私は医学部卒業後35年間は一般・消化器外科医として癌症例、良性疾患症例、救急疾患症例など色々な疾患を診療し、その後も看取りまで関わることも珍しく

ありませんでした。私の父も母も病院で看取りました。家で過ごす時間の少ない私には、その方が両親と一緒に過ごす時間が長く確保できました。自宅で看取ることが本人にとって幸せで、それが家族の役割であるという発想はありませんでした。本人の尊厳を保てる場所で、信頼できるスタッフにケアを委ねることができ、穏やかな最後を迎えることができる環境であれば、患われた「終の棲家」と考えておりました。現在医療費を削減するため、病院に長期間入院することが困難になり、皆さんの中には困った経験のある方も多いと思います。しかし地方では、独居患者や、老老介護、認認介護を行っている家族を支える医療資源が不足しています。

自宅で亡くなっておられても、実際は孤独死であったということも珍しくありません。このような背景もあり癌患者の方には、緩和ケア病棟で最後を過ごしたいと希望される方が増えてきました。これまでは地元の方に「郷和」はどちらかという避けられる傾向がありましたが、最近は地元の方の利用が増えております。一方緩和ケア病棟も例外ではなく、長期入院を減

らすための医療制度が昨年より導入されました。長期入院の方が多くなると、病棟の入院収入が減少する仕組みです。「終の棲家」としての緩和ケア病棟の在り方が変わってきました。「郷和」は長期の入院となった方でも、他に受け入れて頂ける施設があるか、通院可能な状況でなければ退院を求めることはありません。しかし入院を希望される方の待期間が長くなり、その間に病状が悪化してしまい入院できなくなる方には不公平となります。なるべくこの施設を多くの方に利用して頂きたいと願っています。多くの国では緩和ケア病棟はがんの患者さんばかりでなく、あらゆる疾患の死に直面した方を入院の対象としております。現在のところ我国には、死がさし迫ったあらゆる患者さんを緩和ケア病棟で受け入れる余裕はありません。

私もどこが自分の「終の棲家」となるか心配ですが、選ぶことはできません。どこが自分に相応しい場所なのかは色々な考えがあるでしょうが、私自身は自宅ではないと思ってます。死は誰も避けることができない

ものですが、「終の棲家」がどこになるかで本人や家族の満足度に大きな差が生まれるとすれば不幸なことだと思います。緩和ケア病棟でしか対応できない病態の患者さんは多くおられると思います。「郷和」ではこれまで培ってきた経験を生かし、恵まれた環境の中で不安の無い、穏やかな時を過ごして頂けるように努めております。今後も大切な「終の棲家」の一つの場を提供できるよう努力を重ねてまいります。



信頼

緩和ケア病棟「郷和」で相談援助業務を行い3年が経ちました。患者様・ご家族様の身体的・精神的・社会的な問題を確認し、その方に合わせた援助をスタッフ全員で行っております。

相談時、私が心がけていることは患者様・ご家族様の話をよく聞く（聴く）ことです。紹介されて来る患者様・ご家族様は病気に不安を感じて、安らぎ（救い）を求めてやってきた方々です。医師からの病状説明時、泣き崩れる方もおられます。その姿を私は忘れることは無いと思います。

相談時のルーティーンとして基本的な情報は確認しますが、その他にご家族様の表情を確認しながら説明したり、細かなニーズをよく聞く等のかなにかプラスの「気遣い」があるだけで、信頼度は変わってくるのではないかと感じております。まずは信頼していただけることからと思って対応しております。

南部郷厚生病院 医療相談員
秋元 伸仁

自然豊かな環境にある「郷和」ですが、平成13年8月に設置されてから18年目となりました。五泉市の方々にはもちろん五泉市以外の方々（新潟市・阿賀野市・新発田市等）にもご利用いただいております。施設見学も随時受け付けております。事前に連絡頂ければ対応させていただきます。

また、ご利用された患者様のご家族様よりありがたいお言葉や、時には厳しいお言葉をいただきスタッフ一同感謝しております。今後も「郷和」が患者様・ご家族様にとって安らぎの場所となるよう努力して行きたいと思っております。



村松公園の桜が咲き始めました今日この頃、早いもので私が緩和ケア認定看護師になって、もうすぐ1年になります。

私が緩和ケアをしたい、と考えるようになったのは、自分の祖父との経験からです。祖父は胃がんで私が看護学生の時に亡くなりました。本人へ告知はしていませんでしたが悟っていたのでしょう、日々体調が悪化していく中、祖父から、長く会っていなかった友人の所に連れて行ってほしいといわれ、当時学生で時間の融通が利く私が車を出し、祖父に付き添いました。友人と会った時の祖父はそれまでの頑固な祖父とは違い、食事は進みませんでしたが楽しそうにしていました。ただ、帰るときにもじっと考えているような様子が見られました。そのあとも病気についても、体調についても私には何も言いませんでした。その日を境に、祖父は少しずつ体調が悪化し、自分で入院を決めました。最期は病院で亡くなりましたが眠るような最期でした。あとから父に聞いた話では、家族の迷惑にならないようにすべて整理をしていました。家族に辛い中にも決して弱音を吐くことがなかった祖父は自分の死期が近いことを、またがんであると言わなかった家族に対してどんな思いを持っていたのだろうと考えるようにな

りました。

そして看護師になり、さまざまな患者さんと接していく中で、がんと闘っている患者さんとその家族の力になりたい、話を聞きたいと思い、緩和ケア病棟を希望しました。

緩和ケア認定看護師として、患者さんの身体だけでなく心もケアし、その人らしい人生を最期まで続けることができるよう、温かくて一息つける緩和ケア病棟にしていくことが目標です。患者さんとそのご家族に「ここにきて良かったです」と言ってもらえる、そして退院後も「近くに來たから寄ってみました」、とっていただけるような緩和ケア病棟「郷和」を皆で協力しながら作り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



12月 クリスマスコンサート

緩和ケア病棟と薬剤科の関わり

南部郷厚生病院 薬剤師 長谷川 良太

南部郷厚生病院で働き5年、麻薬管理者として3年が経とうとしています。緩和ケア病棟に入院される患者様は様々な苦痛（身体的・精神的・社会的等）をもち、毎日を過ごしておられます。当院の緩和ケア病棟では多職種が連携し、それぞれの痛みの原因にアプローチし、どうすれば患者様の苦痛を軽減できるか考え、業務を行っています。

私は薬剤師として、医療用麻薬を用いた薬物療法で、主に身体的苦痛を緩和できるよう患者様を支援しています。「麻薬」という言葉を聞くと、TVなどのメディアの影響か、依存性があり、中毒症状が出る、といった誤った認識を持ち、服薬を拒否する患者様もおられます。そのような時は患者様のもとへ伺い、医療用麻薬と不正麻薬（違法薬物）との違いや医療用麻薬の有用性を説明しています。薬剤を適切に服用することが充実した日々の生活を送ることに繋がるので、きちんと服用してもらえるように丁寧な説明を心がけています。

医療用麻薬に限らず、毎年新たな薬が発売されますので、情報を収集し、患者様に有益な薬が届けられるように日々努力していきます。



4月
お花見の様子

2018年度 実施行事

4月16日	お花見	12月25日	クリスマス会
5月24日	手品ショー	1月11日	鏡開き（おしるこ）
6月28日	ゴスペルコンサート	1月24日	初釜
7月26日	コースター作成	2月 4日	節分 豆まき
8月23日	ライアーコンサート	3月 1日	ひな祭り
11月24日	蕎麦打ち	3月28日	オカリナコンサート
12月13日	ジャズコンサート		

「郷和」利用状況

（2018年4月～2019年3月）

入院患者数	102名
-------	------

退院患者数	103名
-------	------

（死亡退院 102人）

（自宅退院 1人）

一日平均入院利用者数	15.3名
------------	-------

平均病床利用率	76.3%
---------	-------

平均在院日数	52.6日
--------	-------

発行年月日 2019年6月10日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kosei@sinjinkai.or.jp

